



# 海外通信 from マラウイ

今年1月に、国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊員として、アフリカのマラウイに派遣された小河原香織さん（市内野上出身）から、お便りが届きました。

現地を毎日過ごす中、肌で感じ、実際に目にしたことを率直に語ってくれています。この後もお便りが届く予定です。お楽しみに！

\*小河原さんの任期は2年です。



## トライすることの怖さ 小河原 香織

ここアフリカの南東部、マラウイに来て6カ月が経ちました。梅雨のない6月が過ぎ、7月。乾季に入ったマラウイでは朝晩冷える日が続いています。今年の1月に寒い日本から暑いアフリカのマラウイに来て、やっと暑さが一段落といったところです。

私は青少年活動隊員として、マラウイの首都であるリロングウェから250km南下した、シャープバレという地区に配属されています。この地に家を構えてから、4カ月が経過しました。日本でいう七輪のようなバウラーで食事の支度をするのも、時間を要しなくなりました。

生活が整ってくると、活動に専念したくなります。私の活動は、シャープバレTDC（教師研修センター）が管轄するシャープバレゾーンの17校の8年制の小学校を対象に、「表現芸術」の授業を現地の教員と共に活性化させる手助けをすること。学校は9月から始まり、7月に終わる3学期制が採用されていて、2学期の途中から入った私は、最終学期である現在、初めて始まりから終わりまで1つの学期を見届けることができました。

これまで拠点校であるTDCの隣にあるシャープバレプライマリースクールで、実際に教壇に立ち、日本とは異なる表現芸術の授業を体験しながら教え

たり、今学期に入ってからは、シャープバレゾーンにある他校に足を運び、授業を始めたりすることができました。ちなみに「表現芸術」の授業とは、日本でいう音楽、図工、体育の授業に裁縫やダンス、演劇が加わったものといえば想像できるでしょうか。

マラウイの公用語は、現地語であるチェワ語と英語です。この人々の多くは、英語が話せません。それでもこの土地に外国人が来たのは初めてのことから、土地の人に交じって井戸まで水を汲みに行き、簡単なあいさつをするだけでとても喜んでくれます。

またある時、バウラーに残った炭の火をどう消したらいいものかと考えていたら、3、4歳の子たちが両手に砂をすくいながらこちらを見ていました。言葉とは一体何だろう。日本を出て半年、日本では立ち止まらずにやり過ごしていたことに、直面することが多いと感じています。

今回、誰かの助けになればと思いボランティアに参加した私ですが、毎日ほんの幼い子から、生活の仕方を教えてもらって暮らしています。

さて、皆さんの新しい一年はどのように始まりましたか。こちらはあと数カ月で涼しい季節が終わり、一年で最も暑い4カ月が始まります。

## 善意をありがとう

順不同・敬称略

<市民の健康増進のため>



ネットトヨタ茨城株式会社 221,846円

<教育資金への活用>



ファンタジアカラオケ愛好会 46,684円